



着物の生地を仕立てた人気の高いピンテージアロハを、リサイクル品の着物で再現した「サムライアロハ」。同じ柄がないのも魅力。

「このほかに現在、手がけているプロジェクトはありますか。ひとつは「ごちそう便事業」です。

マイナスからプラスを生み出す

安く売られているものの中から高価な着物だけを選んで、主婦の方々に裁断してもらい、反物にします。同じ作業を専門店にお願いすると、時間も費用も相当かかるのですが、主婦の方でしたら、本当に短時間でできてしまうので費用も抑えられます。このような仕組みで、定価数十万円の着物の生地を使ったアロハシャツを、ポリエステル製で1万5000円から、シルク製で2万円からの価格で販売しています。

これは震災の風評被害に遭った10社でつくった合資会社「未来フードデザイン」で手がけています。温めればすぐできる「冷蔵食品おかず」を配達販売するもので、牛乳販売店さんと提携しながら展開しています。なぜ牛乳販売店さんと提携しているかというと、宅配の牛乳を注文されるご家庭は金銭的に余裕があり、食に対する意識も高い傾向にあるので、風評被害に遭っている商品でも、味、品質共にしっかりしたものならば購入していただけるだろうと考えたからです。このアイデアをアドバイスしてくれたのは、仙台商工会議所青年部の先輩でして、持つべきものは仲間。本当に感謝しています。


それから「さち未来事業」があります。「さち未来」は「日本で一番まずいお米」の異名を持っており、栄養もあまりなく、味も悪いので、いくらがんばっても売れませんでした。しかし、カロリーが低いので、糖尿病など病気でカロリー制限を余儀なくされている方には「量が多く食べられるお米」になるわけです。

また、社会問題になっている「空き家」を対象に、解体が決まっても家の中に残されたままになっている家具や骨董品などの残置物を鑑定することで、解体費用の一部を補填する「空き家鑑定事業」も手がけています。これは、県内の博物館や伝統工芸品事業者と提携することで、解体予定の家屋内に眠る骨董品を保護することにもつながります。

【概要】

株式会社仙台買取館

代表者：代表取締役 櫻井 鉄矢
 設立：2012年5月1日
 資本金：300万円（2016年8月末現在）
 従業員数：6名（2016年8月末現在）
 事業内容：信頼の鑑定眼でチケットやブランド品、貴金属などの買い取りと販売、着物リメイク品の販売を行っています。
 所在地：仙台市太白区中田五丁目13-65
 TEL. 022-306-4741
 ホームページ：http://sendai-kaitorikan.co.jp



やがて生まれ来る子供たちのために。

宇宙のオアシス『地球』。ただひとつの、この青い星を守って行かなくてはなりません。
 大切な人のために、そしてやがて生まれ来る子供たちのために。
 私たちは、よりよい環境をめざし、考えつづけます。

より良い環境をめざす

AOBA 青葉環境保全

本社/仙台市若林区蒲町19-1 電話(022)286-3161(代)

クローズアップインタビュー

マイナス要素をプラスに転換。皆さんの困りごとを新事業に生かし、地域に貢献したい。



株式会社仙台買取館

代表取締役

さくら い てつ や
櫻井 鉄矢 氏

プロフィール

1981年宮城県岩沼市生まれ。血液型B型。2004年明治大学経営学部会計学科を卒業後、(株)大黒屋に入社。大阪店、新宿店の店長を経て、2009年フランチャイズ事業課課長に就任するも東日本大震災により実家が被災し、家業のデイスーパーを助けるため帰郷。2012年(株)仙台買取館を設立。「困っている人たちのために事業を行うと、人と物とお金が集まりますし、仮に失敗しても自分で納得できるので思い切りやれるんです」と語り、多忙な毎日を送る。

震災を機に帰郷し古物商で起業

「事業内容をお聞かせください。現在、仙台市内に大黒屋という古物商を3店舗、営業しています。震災前まで、私は東京で仕事をしておりましたが、実は、震災が起きるまでは地元に戻ってくることはないだろうと思っていました。しかし、岩沼市の実家と、母が地元で経営していたデイスーパー施設が津波によって流され、涙する両親の姿を見て、「戻ろう」と決意しました。そして2012年に起業したという経緯があります。

着物を再利用した「サムライアロハ」

「御社は「サムライアロハプロジェクト」を立ち上げられ、YEG(商工会議所青年部)ビジネスプランコンテスト入賞」など、さまざまな賞を受賞されています。そのコンセプト等をお聞かせください。

地元の岩沼では、同級生をはじめとする小さい子どもを持つ主婦の方々が、震災で保育園が流されてしまったこともあり、子どもを預けることができないう話を聞いていました。そこで、何とか役に立てないものかと、改めて主婦の方々のお話をよく聞いてみたので

す。すると、子どもを預けるのが第一の目的ではなく、仕事をするのが目的なので「子育てをしながらでもできる内職があれば、その方がよい」ということが分かりました。そんな折り、「100年前にハワイに住んでいた日本人が、着物をシャツに仕立て直したのがアロハシャツの起源である」と紹介している新聞記事に目がとまり、「これだ!」と思いました。と申しますのも、私も古物商が大量に扱うものに着物があるのですが、「捨てられるのを待つだけ」というものが、国内に2億枚はあると言われていたのです。こんなに美しく、高価な着物がただ捨てられてしまうのはもったいないと思っていましたし、昔のようにアロハシャツに仕立てることができれば、着物は再利用でき、小さい子どもを抱える主婦の方にも仕事ができます。そこで子育てをしながら内職ができる環境を整備したところ、すぐに人材が集まりまして、主婦の方には着物の裁断を、縫製は福島県南相馬市にある縫製工場にお願いすることになり、事業化することができました。

「どのような流れで「サムライアロハ」はつくられるのですか。」

全国的に余っている着物は、リサイクルショップでも500円とか1000円くらいでしか買取り取っていただけませんし、ひどいところでは量り売りというところもあるようです。しかし、私には鑑定眼がありますので、